

お別れです。いのち残り火、終の恋映え。

銀幕に最後の恋を綴ります。

萬葉日記

吉永小百合

金剛・脚本・早坂 晓
監督・浦山桐郎

子子林 里村之郎 正枝徳郎 児葵子 純子 紀吟郎 武美
裕好希 絵お裕玉 時好章 道美
取中木 藤かづみ 内島島見村木條田崎長
小渡辺千賀子 内島島見村木條田崎長
横左岸市小中 風浜荒三 前河加藤
北大路欣也

プロデューサー
岡田裕介
佐藤雅夫
坂上順
吉藤一重
撮影/安藤庄平

協力
萬葉堂 観光局
成田屋美術出版社
芭印堂書店
京都なかさん株式会社
大王製紙
鳥取市観光協会
山陰観光連盟
三井ホーリー



夢千代日記

ゆめちよじつ

あの夢千代が、スクリーンに織る愛といのちの詩。

「天国の駅」「おはん」で昨年の主演女優賞を独占し、女優としての目をみはる尤実ぶりと共に変わらぬ美しさを見せつけた吉永小百合。その代表作と謳われる「夢千代日記」、待望の映画化である。

この「夢千代日記」は過去三回、NHKにて、いずれも20%を超える高視聴率を得た好シリーズ。今回の映画化では、脚本・早坂暁が企画も担当。広島で被爆し、余命いくばくもない夢千代の最後をぜひ大写しのスクリーンで美しく完結したい、という意欲でもある。

母から受け継いだ芸者置屋「はる屋」を営みながら、「あと半年の命」という過酷な運命を受け入れ、そしてなお生きたいと願う夢千代。そんな心優しい夢千代が、偶然に遭遇した事故で知り合った、どこか影のある旅役者・宗方を愛するようになる。

はかない命の火を灯して恋いそぐ夢千代のはかなさ、美しさを讃えた大人のメルヘンとして、同情豊かに描かれていく。

監督には、吉永小百合があどけない少女スターから女優への脱皮をはかり、初めてブルーリボン主演女優賞に輝いた記念すべき代表作「キュー・ボラのあらじ」(昭和37年)でデビューした浦山桐郎があたるのも話題の一つ。

また、撮影には「私が棄てた女」(昭和44年)以来たびたび浦山監督と名コンビを組んでいる安藤庄平が担当。最近では、モノクロームの美しさを実証してみせた「麻雀放浪記」で昭和59年度芸術選奨文部大臣賞を受賞している。

出演は他に、北大路欣也、樹木希林、名取裕子、田中好子など多彩な顔ぶれが揃い、最後の「夢千代日記」をより一層、実のある華やかなものにしていく。

東映・京都作品

6月8日(土)大公開 熊本東映

●特別鑑賞券発売中！一般 ¥1200 (当1500円の処)・学生 ¥1000 (当大学1300円の処)
日高校1200円の処)

横
セントラル会館2階
356-7393